

シンボルマークが決定

「安心」と「優しさ」をイメージしたシンボルカラー

昨年、10月に発表されました「下関市立市民病院」のシンボルマークをご案内いたします。

コンセプトは、患者様に対する「まごころ」を漢字の「心」で表現しています。また、下関の「し」と市民病院の「し」の二つの「し」が重なり合って、母親が幼い子どもを背負う姿をシンボライズし、「安心感」を表現しています。

シンボルカラーは「ウォームオレンジ」と名付け、病院の基本理念である「安心」と「優しさ」をイメージするものとなっています。

今後は、院内の表示や名札、パンフレットなどに使用することにより、「下関市立市民病院」を積極的にアピールしてまいります。



ブリッジ

2012年
(平成24年) **54**
2/15
下関市立中央病院
広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
☎083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp ホームページ <http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/>

| | | |
|----|--|--|
| 目次 | ● 連携医の声 さいとうレディースクリニック 齋藤 剛 先生 1 | ● Report 2月4日開催 がん医療市民公開講座レポート 3 |
| | ● コラム 向洋の丘 副院長 坂井 尚二 2 | ● CLOSE UP シンボルマーク・講演会のお知らせ 4 |

Information

講演会のお知らせ

平成23年度後期 感染管理委員会講習会

東北大学大学院より 賀来 満夫 先生をお迎えして、「感染症クライシスへの対応（感染症危機管理の重要性とその意義）」をテーマにご講演いただきます。

先生は感染症予防に早くから取り組まれており、当日は貴重な、お話が聞けるものと期待しております。

お申込不要・入場無料となっていますので、多数のご来場をお待ちしています。

日時：平成24年3月1日（木曜日）
会場：下関市立中央病院 2階 講堂

感染管理委員会 平成23年度後期講演会

感染症クライシスへの対応
感染症危機管理の重要性とその意義

演者 ▶ 東北大学大学院 内科病態学講座
感染制御・検査診断学分野教授
賀来 満夫 先生

日時 ▶ 平成24年 **3月1日(木)**
18:00～ **入場無料 申込不要**

会場 ▶ 下関市立中央病院 **2階 講堂**

主 下関市立中央病院 感染管理委員会
お問い合わせ 下関市立中央病院 庶務係
☎ **083-224-3831**
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1

編集後記

中央病院は4月に「地方独立行政法人下関市立市民病院」として生まれ変わります。このためには組織運営に係る膨大な再編作業が必要であり鋭意奮闘中です。外から見える変化としては、病院独自のホームページ開設、立体駐車場の建設等々でしょうが……。新しく市民病院のシンボルマークも決まり、7項目から成る病院の中期目標も12月議会で可決されました。その第一目標は「患者中心のチーム医療の充実」です。中央病院としての「ブリッジ」は今回が最終発刊ですが、連携医・登録医の先生方には心機一転した下関市立市民病院に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

前田 博敬

連携医の声

さいとうレディースクリニック
院長 齋藤 剛 先生

『連携に感謝！』

いつもお世話になっております。婦人科クリニックとして、細江町に開業し満5年が経ちました。主に、子宮がん検診・乳がん検診で要精査となった患者さまの紹介に下関市立中央病院の担当各科の先生方には、いつもながら丁寧に対応していただき感謝する次第です。当クリニックでは、それぞれの検診受診者が年間1,500人前後あり、約7-8%の患者さまが要精査、その約10分の1程度が最終的に治療対象となっています。

連携室への受診申し込みにおいても、毎回スムーズに対応していただき感謝しております。予約確認票等も、申込みから約10分弱でFAX返信していただきおり当方が作成する紹介状とともに紹介患者さまへお待たせすることなくお渡しでき、

受診の際の待ち時間の配慮をしていただく等、驚きに値します。

当クリニックは、遠く宇部・厚狭・小野田地域や周南地域から受診される患者さまもおられ、過去に当該地の基幹病院への紹介の機会がありましたが、それら病院の連携室は旧態依然とした対応で逆の驚きと落胆を覚えた記憶があります。

医学・医療技術は日進月歩ですが、それをサポートするコメディカル&スタッフも今以上に進化して医療サービスの向上に努めていただいていると、感謝しております。



患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

☎ **083 224-3860** FAX **083 224-3861**

副 院 長
坂 井 尚 二

「メディカルサポートコーチング」

この号をもって馴染みのあった「中央病院」
としてのブリッジは終わり、次号より「下関市
立市民病院」として新しく生まれ変わる。そこ
で病院で働く職員として、名前だけでなく、中
身も再生充実する方法の一つとしてメディカル
サポートコーチングについて述べてみたい。

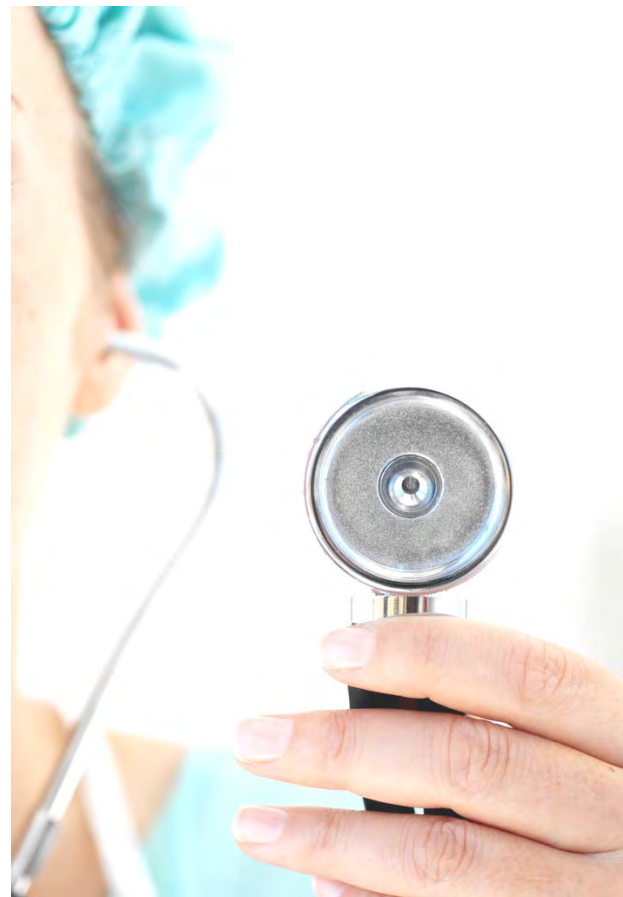
コーチングは、スポーツのコーチが使ってい
た指導スキルを基に、心理学、接遇学、カウン
セリング学、成功哲学などが組み合わされ、

「目標や希望を達成するために、人の中に眠っ
ている答えを引き出し、自発的行動を促してい
くコミュニケーション法」といえる。医療にお
いては、医療現場をサポートしていくコーチン
グ法ということからメディカルサポートコーチ
ングと呼ばれている。ここで基本としてマスタ
ーすべきことは「聴くこと」、「質問する
こと」、「伝えること」があげられる。

医療者对患者さんの間では、患者さんの訴え
に耳を傾け的確に対応しているだろうか、スタ
ッフ間で十分に意思疎通ができ安心安全で高品

質な医療につながっているだろうか、今一度自
省する必要があるだろう。また、研修医との医
学教育でメディカルサポートコーチングを応用
させることは、自分自身も共に育つ「共育」と
つくづく考えさせられる。

本年4月からの新たな出発に際し、内外で
「良くなった」と評価いただけるように
職員一同頑張っていきたい。



2月4日開催 平成23年度 第2回 がん医療市民公開講座レポート

「大腸がん」の早期発見・早期治療

消化器科医長

王 寺 裕

2月4日海峡メッセ下関において、がん医療
市民公開講座 『見る 知る 分かる がん講座、
大腸癌の早期発見・早期治療』を開催しまし
た。講師として九州大学病態機能内科講師 松
本主之先生と、九州大学医学部名誉教授・九州
中央病院院長 飯田三雄先生にお越しいただき
講演を行いました。

当院主催のがん医療市民公開講座は、平成
18年3月に第1回を行って以降今度が9回目
ですが、第3回の際にも胃癌に関しての講演を
松本先生と飯田先生にお話いただいております。今
回は大腸癌に関してのお話をお願いしました。

まず飯田先生からは「大腸癌にならないため
には」とのタイトルで、大腸癌の疫学・予防を
中心にお話があり、松本先生からは「大腸癌の
診断と内視鏡治療」という内容でご講演いた
だきました。飯田先生の講演では、大腸癌が男性
の癌の3位・女性では1位を占めていること、
飲酒・喫煙や肉食・野菜不足などが大腸癌罹患
の危険性を飛躍的に高め、それらの因子を是正
することが、大腸癌の一次予防で重要であるこ
と等について提示されていました。また松本先
生の講演では、注腸検査・大腸内視鏡、EMR
や外科手術などの一般的な診断・治療の他、カ

プセル内視鏡・CT colonographyやPET、ESD
など最新の検査・処置の現状も示されていまし
た。また具体的な大腸定期検査のあり方
などについても、分かり易くお話しを頂きまし
た。

講演の最後に講師の先生方への質疑応答の時
間があり、便通などの日常的な悩みから遺伝性
大腸癌にいたるまでの様々な質問に対してお答
え頂きました。大腸癌は比較的身近な疾患で
あり、会場に来られた一般参加者の方々も
熱心に講演を聞かれていました。

たくさんの方にお越しいただき
ありがとうございました。

平成23年度 第2回 がん医療市民公開講座

見る 知る 分かる がん講座

大腸がんの
早期発見 早期治療

講演 司会：下関市立中央病院 消化器科医長 王寺裕 氏
「大腸がんにならないためには」
公立学校共済組合 九州中央病院
病院長 飯田 三雄 氏
「大腸がんの診断と内視鏡治療」
九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学
講師 松本 主之 氏
Q & A (ご質問にお答えいたします)

日 時 2012年 2/4(土) 14:00~16:00 開場 13:30

会 場 海峡メッセ下関 200名様 先着申込 無料
山口県国際総合センター10階 国際会議場

主催 下関市立中央病院
後援 山口県 下関市教育委員会 下関市医師会 下関市障害者福祉会 下関市商工会
申込み 申込書は、電話・FAX等で申込されるか、当院外来に備え付けの
申込書をご利用下さい。 ※必要記入事項…住所・氏名・参加人数

下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838

副院長
坂井 尚二

この号をもって馴染みのあった「中央病院」としてのブリッジは終わり、次号より「下関市立市民病院」として新しく生まれ変わる。そこで病院で働く職員として、名前だけでなく、中身も再生充実する方法の一つとしてメディカルサポートコーチングについて述べてみたい。

コーチングは、スポーツのコーチが使っていた指導スキルを基に、心理学、接遇学、カウンセリング学、成功哲学などが組み合わされ、「目標や希望を達成するために、人の中に眠っている答えを引き出し、自発的行動を促していくコミュニケーション法」といえる。医療においては、医療現場をサポートしていくコーチング法ということからメディカルサポートコーチングと呼ばれている。ここで基本としてマスターすべきことは「聴くこと」、「質問すること」、「伝えること」があげられる。

「メディカルサポートコーチング」

医療者对患者さんの間では、患者さんの訴えに耳を傾け的確に対応しているだろうか、スタッフ間で十分に意思疎通ができ安心安全で高品質な医療につながっているだろうか、今一度自省する必要があるだろう。また、研修医との医学教育でメディカルサポートコーチングを応用させることは、自分自身も共に育つ「共育」とつくづく考えさせられる。

本年4月からの新たな出発に際し、内外で「良くなった」と評価いただけるように職員一同頑張っていきたい。



2月4日開催 平成23年度 第2回 がん医療市民公開講座レポート

「大腸がん」の早期発見・早期治療

消化器科医長

王 寺 裕

2月4日海峡メッセ下関において、がん医療市民公開講座 『見る 知る 分かる がん講座、大腸癌の早期発見・早期治療』を開催しました。講師として九州大学病態機能内科講師 松本主之先生と、九州大学医学部名誉教授・九州中央病院院長 飯田三雄先生にお越しいただき講演を行いました。

当院主催のがん医療市民公開講座は、平成18年3月に第1回を行って以降今度が9回目ですが、第3回の際にも胃癌に関しての講演を松本先生と飯田先生にお話いただいております。今回は大腸癌に関してのお話をお願いしました。

まず飯田先生からは「大腸癌にならないためには」とのタイトルで、大腸癌の疫学・予防を中心にお話があり、松本先生からは「大腸癌の診断と内視鏡治療」という内容でご講演いただきました。飯田先生の講演では、大腸癌が男性の癌の3位・女性では1位を占めていること、飲酒・喫煙や肉食・野菜不足などが大腸癌罹患の危険性を飛躍的に高め、それらの因子を是正することが、大腸癌の一次予防で重要であること等について提示されていました。また松本先生の講演では、注腸検査・大腸内視鏡、EMRや外科手術などの一般的な診断・治療の他、カ

プセル内視鏡・CT colonographyやPET、ESDなど最新の検査・処置の現状も示されていました。また具体的な大腸定期検査のあり方などについても、分かり易くお話を頂きました。

講演の最後に講師の先生方への質疑応答の時間があり、便通などの日常的な悩みから遺伝性大腸癌にいたるまでの様々な質問に対してお答え頂きました。大腸癌は比較的身近な疾患であり、会場に来られた一般参加者の方々も熱心に講演を聞かれていました。

たくさんの方にお越しいただき
ありがとうございました。

平成23年度 第2回 がん医療市民公開講座

見る 知る 分かる がん講座
大腸がんの早期発見 早期治療

講演 司会：下関市立中央病院 消化器科医長 王寺 裕 氏
「大腸がんにならないためには」
公立学校共済組合 九州中央病院
病院長 飯田 三雄 氏
「大腸がんの診断と内視鏡治療」
九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学
講師 松本 主之 氏
Q & A (ご質問にお答えいたします)

日時 2012年 2/4(土) 開場 13:30
14:00~16:00

会場 海峡メッセ下関 200名様 無料
山口県国際総合センター10階 国際会議場

主催 下関市立中央病院
後援 山口県 下関市教育委員会 下関市医師会 下関市歯科医師会 下関市連合自治会 下関市連合婦人会
申込み 事前申込みは、電話・FAX等で申込まれるか、当院外来に備え付けの申込み書をご利用下さい。 ※必要記入事項(住所・氏名・参加人数)
問合せ 下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838

この号をもって馴染みのあった「中央病院」としてのブリッジは終わり、次号より「下関市立市民病院」として新しく生まれ変わる。そこで病院で働く職員として、名前だけでなく、中身も再生充実する方法の一つとしてメディカルサポートコーチングについて述べてみたい。

コーチングは、スポーツのコーチが使っていた指導スキルを基に、心理学、接遇学、カウンセリング学、成功哲学などが組み合わせられ、



「メディカルサポートコーチング」

副院長
坂井 尚二

「目標や希望を達成するために、人の中に眠っている答えを引き出し、自発的行動を促していくコミュニケーション法」といえる。医療においては、医療現場をサポートしていくコーチング法ということからメディカルサポートコーチングと呼ばれている。ここで基本としてマスターすべきことは「聴くこと」、「質問すること」、「伝えること」があげられる。

医療者对患者さんの間では、患者さんの訴えに耳を傾け的確に対応しているだろうか、スタッフ間で十分に意思疎通ができ安心安全で高品質な医療につながっているだろうか、今一度自省する必要があるだろう。また、研修医との医学教育でメディカルサポ

ートコーチングを応用させることは、自分自身も共に育つ「共育」とつくづく考えさせられる。

本年4月からの新たな出発に際し、内外で「良くなった」と評価いただけるように職員一同頑張っていきたい。



「大腸がん」の早期発見・早期治療

消化器科医長

王 寺 裕

2月4日海峡メッセ下関において、がん医療市民公開講座 『見る 知る 分かる がん講座、大腸癌の早期発見・早期治療』を開催しました。講師として九州大学病態機能内科講師 松本主之先生と、九州大学医学部名誉教授・九州中央病院院長 飯田三雄先生にお越しいただき講演を行いました。

当院主催のがん医療市民公開講座は、平成18年3月に第1回を行って以降今度が9回目ですが、第3回の際にも胃癌に関しての講演を松本先生と飯田先生にお話いただいております。今回は大腸癌に関してのお話をお願いしました。

まず飯田先生からは「大腸癌にならないためには」とのタイトルで、大腸癌の疫学・予防を中心にお話があり、松本先生からは「大腸癌の診断と内視鏡治療」という内容でご講演いただきました。飯田先生の講演では、大腸癌が男性の癌の3位・女性では1位を占めていること、飲酒・喫煙や肉食・野菜不足などが大腸癌罹患の危険性を飛躍的に高め、それらの因子を是正することが、大腸癌の一次予防で重要であること等について提示されていました。また松本先生の講演では、注腸検査・大腸内視鏡、EMRや外科手術などの一般的な診断・治療の他、カ

プセル内視鏡・CT colonographyやPET、ESDなど最新の検査・処置の現状も示されていました。また具体的な大腸定期検査のあり方などについても、分かり易くお話を頂きました。

講演の最後に講師の先生方への質疑応答の時間があり、便通などの日常的な悩みから遺伝性大腸癌にいたるまでの様々な質問に対してお答え頂きました。大腸癌は比較的身近な疾患であり、会場に来られた一般参加者の方々も熱心に講演を聞かれていました。

たくさんの方がご参加いただきました。どうもありがとうございました。

平成23年度 第2回 がん医療市民公開講座

見る 知る 分かる がん講座

大腸がんの早期発見 早期治療

講演 司会：下関市立中央病院 消化器科医長 王寺 裕 氏
「大腸がんにならないためには」
公立学校共済組合 九州中央病院
病院長 飯田 三雄 氏
「大腸がんの診断と内視鏡治療」
九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学
講師 松本 主之 氏
Q & A (ご質問にお答えいたします)

日時 2012年 2/4(土) 14:00~16:00 開場 13:30

会場 海峡メッセ下関 200名様 先着申込 無料
山口県国際総合センター10階 国際会議場

主催 下関市立中央病院
後援 山口県 下関市教育委員会 下関市医師会 下関市歯科医師会 下関市商工会
申込み 申込書は、電話・FAX等で申込まれるか、当院外来に備え付けの申込書をご利用下さい。 ※必要記入事項(住所・氏名・参加人数)を記入して下さい。

下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838

目次

- 【連携医の声】医療法人ひろやま内科 弘山直滋先生 … 1
- 【コラム 向洋の丘】院長 小柳信洋 … 2
- 【ご紹介】新任紹介 … 2・3
- 【クローズアップ】記念式典&設立記念パーティを開催 … 4

発行：2012(平成24)年4月25日

下関市立市民病院広報年報委員会

TEL：083 - 231 - 4111

FAX：083 - 224 - 3838

E-mail：info@shimonosekicity-hosp.jp

ホームページ：http://shimonosekicity-hosp.jp/

下関市立中央病院は、「地方独立行政法人下関市立市民病院」として新たなスタートを切りました。

下関地域の地域がん診療拠点病院、災害拠点病院として、これからも地域の医療機関の皆様と連携を図り、多様なニーズに対応できるよう、医療機能の充実も強化していきます。これからもよろしくお願いいたします。



地方独立行政法人

下関市立市民病院
SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

連携医の声

医療法人ひろやま内科
院長 弘山直滋先生

新生「下関市立市民病院」の誕生、誠におめでとうございます。

当院は、平成9年に山の田の交差点近くに開業して満15年が経ちました。近隣の住民の「かかりつけ医」として内科診療を行っていますが、要精査や要手術となった患者さんの紹介に際し、市立市民病院の先生方には大変お世話になっており、感謝申し上げます。最近、やっと連携室の使い方に慣れてきて、外来のみならず入院の際の紹介にも連携室の皆さんがテキパキと動いていただき、その苦勞には頭が下がります。

医師会長として

「下関市立市民病院」に期待すること

市内の公的総合病院の一つではありますが、下関市立市民病院にはその代表的存在であって欲

しいと思っています。現在、常勤医師・看護師不足という問題がありますが、この問題は理事長以下の経営陣に早急に解決するよう努力していただき、現場の先生

やスタッフの皆様には、明るく自信を持って頑張っていただきたいと思います。

そして、大変だと思いますが、「連携医」の方々と積極的に「顔の見える関係」、「声の聞こえる関係」を構築していただき、紹介・逆紹介がもっともっとスムーズになっていけば、全てが明るい方向に進んで行くと思います。医師会も新生「下関市立市民病院」を応援しています。

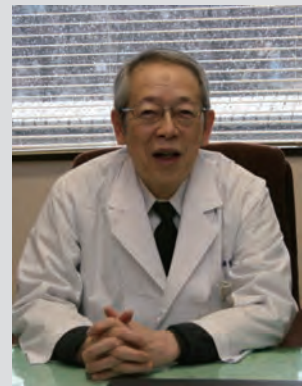


コラム 向洋の丘から

平成 24 年度がよいよスタートして、「地方独立行政法人 下関市立市民病院」がその第一歩を踏み出しました。4 月 1 日には、新病院開設記念式典が市長、市議会副議長、文教厚生委員会委員、病院同門会の皆様方、さらにはにこにこ保育園の園児 2 名をお迎えして抜けるような青空の下執り行われました。第一回理事会も無事終了したことを合わせてご報告申し上げます。

見上げれば病院屋上の病院名の看板も清清しく感じられました。月曜日にはバス行き先案内で市民病院経由のアナウンスを耳にしました（行き先掲示は数日遅れて更新されたようです）。病院職員の顔に力強さを感じたのは私だけではないでしょう。病院職員とそのご家族の生活を守っていくこと、下関市医療体制の中核病院としての責任を果たしていくこと、下関市民に信頼される病院を作り上げていくこと、そして安定した病院経営をしてゆくことなど病院理事長としての責任の重大さに身に引き締まる思いです。病院同門の先生方にはこの度の新聞紙上への特集掲載など本当に温かいご支援を頂まして誠にありがとうございました。今後もこれまで以上にご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

院長 小柳信洋

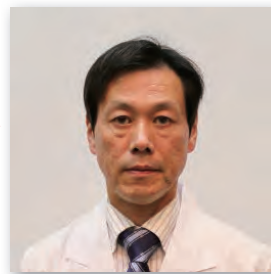


「新任紹介」

4 月から、20 人の新任医師が着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

4 月より福岡市より赴任しました。

下関は脳血管障害や外傷などの一般的な脳神経外科的治療施設はありますが、てんかんや脳卒中後の四肢硬縮などに対する機能的な治療を行う専門医が不在で、この点で地域皆様のお役にたてるものと思っております。これらでお悩みの方は脳神経外科の外来を受診していただきますようお願い申し上げます。



いしばし ひであき
石橋 秀昭
脳神経外科／部長



なりやま けんいち
成山 謙一
耳鼻咽喉科／医長

4 月から 2 名の外科医（中原、渡邊）が常勤として赴任してきました。どの科に紹介するか迷われている時や、緊急で紹介したいとき、吐下血や腹痛で精査が必要な時なども時間を問わず、救急部宛にご紹介いただいて結構です。中原は関東、関西で 3 次救急の研鑽も積んでおり、2 名とも内視鏡手術も含め癌治療に関しても経験豊富です。救急科は各科の Dr. と緊密に連絡をとれる体制をとっていますので、当然のことながら外科疾患に関わらず対応いたします。お困りのことがありましたら、気軽にご相談、ご紹介ください。



なかはら ちひろ
中原 千尋
救急科／部長



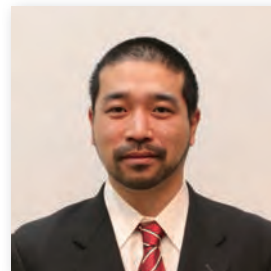
いけむら さとし
池村 聡
整形外科／医長



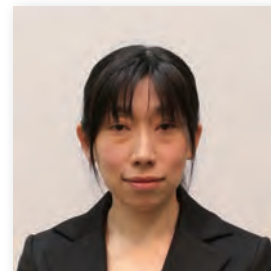
ながはた さわこ
長畑 佐和子
歯科・麻酔科／医長



やまとぎ しげなり
山砥 茂也
放射線診断科／医長



おなか さだお
尾中 貞夫
脳神経外科／医長



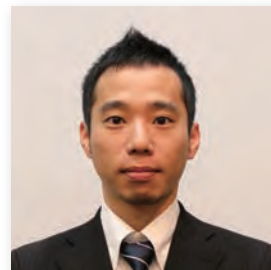
よしみず あきこ
吉水 秋子
腎臓内科／医師



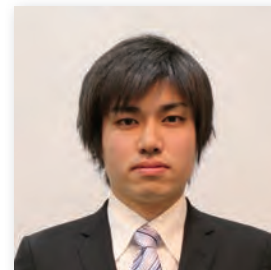
おおぞの けいこ
大園 慶吾
外科／医師



わたなべ ゆうすけ
渡邊 雄介
救急科／医師



うえだ こうき
上田 幸輝
整形外科／医師



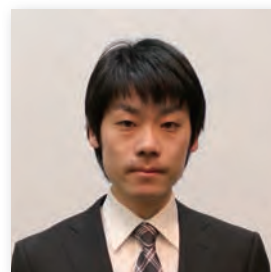
こそこの なおや
小園 直哉
整形外科／医師



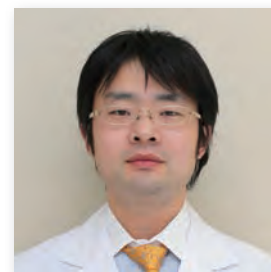
うつのみや たけし
宇都宮 健
整形外科／医師



かわた じゅん
河田 純
外科／医師



もりしげ しょうじ
森重 翔二
心臓血管外科／医師



ほり よしふみ
保利 喜史
消化器内科／医師



かめだ まさし
亀田 昌司
研修医



あだち としあき
安達 利昭
研修医



かわの ゆうき
河野 雄紀
研修医



ふるたに ひであき
古谷 英章
研修医

●地域医療連携室からのお知らせ●●●●

画像診断外来を再開しました。まずは、当院地域医療連携室にご予約ください。

▷外来診療日…火・木曜日の午前

また、診療科外来での画像診断も従来どおり行っています。併せてご利用ください。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは

地域医療連携室へ

☎083-224-3860 Fax 083-224-3861

CLOSE UP!

「地方独立行政法人 下関市立市民病院」 設立式典&設立記念パーティを開催。



平成 24 年 4 月 1 日 (日)、「下関市立市民病院」がスタートしました。

当日は、正面玄関前で、記念式典を行いました。法人の理事長となった小柳院長からは、これからの決意の言葉が、中尾下関市長や、伊藤同門会会長からは、激励の言葉が発せられ、参加した当院職員一同も、気持ちを新たにしていました。挨拶の後には、3月に完成した立体駐車場横で、「地方独立行政法人下関市立市民病院」を掲げた看板の除幕式と、バルーンセレモニーが行われ、看板の除幕とともに、青空高くに風船が舞い上がりました。

午後には、下関グランドホテルで設立記念パーティを行い、大いに盛り上がりました。



編 集 後 記

陽春の候、新鮮な中に緊張感も漂う新生活スタートの時節です。下関市立中央病院も4月1日より下関市立市民病院として生まれ変わり、新病院として初めての「ブリッジ」をお届けします。

医療の本質は変わることはありませんが、医療のサービスは変わらなければなりません。連携医の先生方や地域の皆様から親しまれ、高い評価を頂けるように職員一同努めていきますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

副院長／地域医療連携室長 坂井 尚二



Contents 〈ブリッジ vol.56 目次〉

- 【連携医の声】 よしとみクリニック 綿野友美先生 … 1
- 【コラム 向洋の丘】 副院長 上野安孝 … 2
- 【特集】 救急科紹介 … 2・3
- 【クローズアップ】 研修会等開催のご案内
緩和ケア研修会・医療安全講演会 … 4



○発行○ 2012(平成24)年6月15日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の声

よしとみクリニック
院長 綿野友美先生

よろしくお願ひいたします。

いつも大変お世話になっております。市民病院在職中もいろいろお世話になりました。

昨年、父が他界してから実家の「吉富外科医院」を継いで頑張ってきましたが、この5月1日からやっと「よしとみクリニック」と名称変更して小児科を始めることにいたしました。職員は誰一人、小児医療に携わったことがなく、道具もほとんどない状態でしたが、少しずつ小児科らしい外来作りができるようになって参りました。

連携の方にはいつも丁寧に対応していただき、とても楽な気持ちでご紹介出来ています。医局の先生方にもよくご相談させていただいており、大変心強く思っております。また、救急外来に専任のドクターが来てくださったとの事、大変頼もしく感じております。早速、何人か時間外に快く診ていただき、大事に至らず助かりました。

近くで開業しており、なおかつ同門ということで、私は市民病院に紹介することがほとんどですが、いつも本当に有り難いと思っております。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861



地方独立行政法人下関市立市民病院が誕生して2ヶ月が経過しました。先生方に「どこがどう変わったのか」とよく聞かれます。

目に見える変化としては、まず病院名が変わってシンボルマークができました。病院の基本理念である「安心の優しい医療を提供し、市民から信頼される病院」を象徴する温かみのあるマークです。医師やナースのユニフォームも新しくなり、新人も多数入りました。院内で働く人々の表情が4月以来明るくなったように感じます。それはマークやユニフォームが新しくなったことのみでなく、変化の前の不安の気持ちから抜け出したことによる安堵感もあるのではないのでしょうか。しかし、本当の笑顔は病院の経営と運営が順調に推移して初めて見られるものだと思います。

法人化による本質的な変更点は目に見えないものです。まず経営形態が変わりました。職員の定数枠がなくなるなど、規程や業務方法が大きく変わりました。累積赤字は背負わなくてよいことになりました。計画的に人員と機器を整えながら、中期計画を目標に経営を行います。目に見える部分にも、今後、徐々に変化が起きて来ます。計画どおりに進めば、経営改善し、本当の笑顔を見ることができるようになります。しかし、最終的には「やってみないと判らない」と言わざるを得ません（まるで手術の説明のようです）。

経営改善の基本は言うまでもなく患者様に質の高い医療技術と心温まるホスピタリティを提供することにあります。それに劣らず重要なのは地域の先生方との連携です。先生方と患者様の信頼を得られるよう、医師、看護師、コメディカル、事務職員、皆で力を合わせて理念の実現に向けて努力していきたいと思っております。引き続き今後も市立市民病院に対する厚いご支援をお願いいたします。

【特集】

市立市民病院 救急科を紹介します！

平成24年4月から、当院救急科には、2名の外科医が勤務しています。
最近では、救急車のサイレンを聞く回数も増えました。
今回は、そんな頼れる「救急科」を紹介いたします。



救急科中原部長から皆さまへ

今年4月から市立市民病院救急科に配属となった中原です。

医者になり19年目を迎えるようになっていますが、6年目からは外科医として主に癌患者を治療してきました、今回久しぶりに救急患者をみております。5年間は数多くの3次救急患者にも携わってきたので、それなりに対応はしておりますが、当然のことながらいろいろな疾患で治療法も変わっており、毎日一つ一つが新鮮で勉強の日々を送っています。

専門は消化器外科一般です。癌を含め、interventionにも精通しています。特に種々の合併症を持った患者の集学的治療に関しては、心臓外科や高次救急センターでの経験もあり得意分野の一つであります。多発外傷などは専門でもあり、紹介いただければ対応いたします。➤

市立市民病院救急センターのスタッフ▶
※後列右から1番目が中原部長、2番目が渡邊医師

救急センターは、救急患者受け入れと共に、外来処置（点滴など）を行い、現在は、外来化学療法もチームを組んで展開しています。救急受診した患者様とご家族の方々が、安心して検査・治療が受けられるように、まごころで対応いたします。「命を守る」ハイレベルな医療の提供で、皆様の安全を目指していきます。



▼ 我が救急科は各科と連携を密にとっており、専門治療が必要な時はいつでも迅速にその科にお願いできる体制をとっております。内視鏡治療や内視鏡手術を含め、専門の治療を行える体制を整えておりますので、どんな患者でも御紹介いただいて結構です。休日でもお困りの症例がありましたら、私の方にご相談の一報をいただければ対応いたします。

「救急科の渡邊と申します。」

平成18年卒業で、九州大学第1外科に所属し外科医として修練をしておりましたが、本年度から当院で救急科を立ち上げるということになり、中原部長と赴任してまいりました。私は1年間みの勤務になりますが、立ち上げの1年ということで、院内のシステムや環境の整備など、中原部長および救急科のスタッフ全員で作り上げていきたいと思っております。

救急科ですので、様々な疾患に対応しますが、特に腹部救急疾患・単孔式腹腔鏡下手術についてご紹介します。



図①



▲図①：手術手袋を用いた単孔式腹腔鏡下手術手技 図②：単孔式虫垂切除術3週間後の臍部創。全く創は目立たなくなる

現在、腹腔鏡下手術が従来の開腹手術に比較し、その低侵襲性、高い整容性のみならず、精緻な手術が行えるとして普及しています。先進施設では、さらに整容性を追求し、ひとつの操作孔で手術を行う単孔式腹腔鏡下手術（Single-Incision Laparoscopic Surgery：SILS）がなされるようになっていきます（図①）。当科におきましても、急性虫垂炎に対し、本年度から導入しており、胆嚢結石症・急性胆嚢炎・結腸癌などに適応を拡大予定です。

当科で施行した単孔式腹腔鏡下虫垂切除術後3週間の臍部創を提示しますが、臍部からアプローチするため、まったく創は分からなくなります（図②）。従来の開腹手術や腹腔鏡下手術と腹腔内手術操作はまったく同じ質で行えますが、明らかに術後創が異なります。今は、患者さんが治療法を選択し、医師は治療法を選択肢を提示する時代です。その中で、単孔式腹腔鏡下手術は患者さんの大きな満足につながる選択肢だと思いますので、腹部救急疾患が疑わしい患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。

外科医ですので、腹部疾患・手術の紹介をさせていただきましたが、腹部疾患のみならず、なんでも対応いたしますので、ご紹介ください。よろしく願いいたします。



CLOSE UP!

第4回がん診療に携わる医師に対する

「緩和ケア研修会」を開催します。

日時 平成24年8月25日(土) 13:30～21:10

8月26日(日) 9:00～17:30

場所 市立市民病院2階講堂

参加費 無料(2日分のお弁当代・お茶代として、2,000円が必要です)

●●●参加には、申し込みが必要です!●●●(応募多数の場合は抽選)

申込方法 7月27日(金)までに、申込用紙にもれなくご記入の上、ファクス(fax:083-224-3838)、または、Eメール(keiei@shimonosekicity-hosp.jp)でお申し込みください。

申込用紙は、病院ホームページでダウンロードすることもできます。

問い合わせ先 事務部経営企画グループ(Tel 083-224-3850)

すべてのプログラムを終了すると、厚生労働省健康局長より終了証が授与されます。
また、終了された方は、日本医師会生涯教育制度10単位
カリキュラムコード「5、6、10、13、14、21、22、69、80、81」が取得できます。

「医療安全講演会」のご案内

日時 平成24年8月9日(木)17:45～19:15

場所 市立市民病院2階講堂

参加費 無料

テーマ インフォームドコンセントの要件

講師 前田正一先生

慶應義塾大学准教授(大学院健康マネジメント研究科、
医学部医療政策・管理学教室(兼担))

お問い合わせは、医療安全対策室(Tel 083-231-4111)へどうぞ。



▲前田正一先生

編集後記

暑さが日ごとに増してまいりましたが、先生方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。綿野友美先生、「よしとみクリニック」の誕生、誠におめでとうございませぬ。貴重な小児科医です。医療連携を密にして地域の子どもたちのために更にご活躍されること、期待しています。

8月9日には医療安全の第一人者である前田正一先生に当院でご講演いただける機会を得ました。先生はたいへんご高名で、毎日全国を飛び回っておられる超多忙な方です。数年前からオファーしていましたが、やっとその願いが叶いました。滅多に聴けるお話ではありません。しかも無料です。連携医の先生方には是非ともご参集いただきますようご案内申し上げます。

副院長・医療安全対策室室長 前田 博敬



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

TEL: 083-231-4111 FAX: 083-224-3838

E-mail: info@shimonosekicity-hosp.jp

ホームページ: http://shimonosekicity-hosp.jp/

B
r
i
d
g
e

Contents 〈ブリッジ vol.57 目次〉

- 【連携医の声】伊藤内科医院 伊藤 肇 先生 … 1
 【コラム 向洋の丘】副院長 室井由美子 … 2
 【特集】呼吸器・感染症外来開設 … 2
 D M A T 活動紹介 … 3
 【クローズアップ】第1回がん医療市民公開講座
 新人医師紹介 他 … 4



○発行○ 2012(平成24)年8月31日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の 声

伊藤内科医院
伊藤 肇 先生

昭和52年5月、稗田北町に内科の診療所を開業して35年になります。

その間デイケアセンターを立ち上げたり、新井医院の経営を譲り受けたりして、それらと合わせ医療法人藤寿会という法人の事業になっていますが、私は35年前と変わらず伊藤内科で診療を続けております。したがって、一内科医の立場から、経験したこと、感じたことを述べます。

まず35年前と比べ、高齢化により人口構成が変わり患者さんや疾病内容が変わってきました。最近の医療機器の進歩は目覚しく、新しい治療薬が次から次へと生まれています。当然新しい診断法、治療法がでできます。

具体例を取り上げると、昭和52・53年頃は急性心筋梗塞の患者さんが来院しても冠動脈造影はまだ一般的でなく、ウロキナーゼの全身投与を行っていました。脳梗塞ばかりです。それが今はカテーテルにより、血栓溶解が試みられます。そのため我々開業医の役割は如何に早く診断して、総合病院に送るかということになります。

十数年前ですが、認知症が進み手足の拘束がある入院患者さんが急に呼吸状態が悪くなり、血中酸素飽和度が下がり酸素吸入をしても上がりません。家族の何とかしてほしいという切なる希望で夜間中央病院の当直をしておられた石丸先生に無理なお願いをし、受け取って頂きました。肺梗塞の診断で、治療を行った結果、呼吸状態は回復し、帰って来られました。このように中央病院(今は市民病院)には数限りなくお世話になっております。他の病院も同様です。

過去随分紹介状を書いてきましたが、紹介先は患者さんや家族の希望を第一としています。どの病院も満床状態で受け入れが困難な時、やっと入院可能なベッドが見つかった場合は、こちらの主導でとにかくその病院に行ってくださいといいます。紹介状には病歴や検査データ、処方などを主として書いていましたが、現在はこちらの考えをきちんと伝えたほうが良いと思っています。最近、紹介先の先生方の報告が大変詳しく、参考になっています。

これから病診連携がますます重要になると考えています。どうぞよろしくお願いいたします。





残暑お見舞い申し上げます。

早いもので、4月に「地方独立行政法人下関市立市民病院」としてスタートし、5カ月が過ぎようとしています。

私自身も副院長に就任し、医療分野における看護職の活動領域が大きく変わろうとしていることを実感し、責任と役割の重さを改めて痛感しています。

今、市民病院は大きく変わろうとしています。市民の皆様にも身近に感じてもらえることの一つに、シンボルマーク（右図）とシンボルカラーがあります。当院のシンボルマークは皆様に対する「まごころ」を漢字の「心」で表し、下関の「し」と市民病院の「し」が重なり合っ、母親が幼い子供を背負う姿をシンボライズし、「安心感」を表現しています。シンボルカラーは「ウォームオレンジ」と名づけられ、病院の基本理念「安心」と「優しさ」をイメージしています。このマークを胸に看護師のユニホームも一新し、病院が明るくなったと好評を得ています。



看護部も病院の理念に従い、安心で優しい心の通った看護を目指しています。そのためには、看護部が臨床の要であることを自覚し、専門職として優しい気持ち、思いやる心を表現できる看護技術の習得に努め、個々に合った専門的なスキルを身につけることで、院内・院外で大いに地域に貢献できると考えています。

現在病院を取り巻く環境は厳しいものですが、看護部が中心となり様々な取り組みを行っています。朝の挨拶運動や、玄関前の花壇の手入れなど、来院される皆様に少しでも気持ちよくすごしてもらおうためのものです。これからも地域医療を守る病院として、パワフルに活動を展開していきたいと思ひます。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

「呼吸器・感染症外来」を設置しました。

7月の呼吸器学会・肺癌学会地方会を控えた16日、新聞で山口県における呼吸器関係の専門医が少なく、全国的にも低い数と指摘されました。もっと県内の感染症専門医は少ないですが、当院は小児科と併せ2名います。



この度、呼吸器と感染症の初療を行う窓口として、「呼吸器・感染症外来」を設けました。


診る疾患としては肺炎、その随伴性胸水や膿胸、気胸や肺腫瘍疑い等です。海外渡航に関する感染症も拝診しますが、感染症病棟の玄関に誘導する場合がありますので、その旨ご一報ください。原則紹介制で、毎日午後3時から診察としていますが、急患など随時受け付けています。電話1本で動きますので、お気軽に地域医療連携室にご相談ください。

当院では15年前から感染症専門を兼ねる呼吸器内科・外科がグループで診療し、現在は、呼吸器外科専門医及び感染症専門医1名、呼吸器外科専門医1名と呼吸器科専門医2名を擁します。また、当院は感染関係の学会認定やII種感染症指定施設であり、そのうち日本環境感染学会からの指示で「感染対策ネットワーク下関」と、メーリングリスト（ML）を立ち上げていたところ、4月から地域連携が保険適用となりました。当地の先生方には合同カンファレンス等でお世話になり、感謝します。

最後に感染症専門医などを目指す全国の先生方へ。当院から数多くの専門医を輩出していますので、有志はご相談ください。（呼吸器・感染症センター長 吉田順一）

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861

大規模災害救助機関等 合同実働訓練に参加して

 救命センター看護師 保村宏樹
(日本DMAT隊員)

6月15日、山陽小野田市の楠企業団地で行われた「山口県大規模災害救助機関等合同実働訓練」に、本院のDMATも参加してきました。篠原外科部長を隊長に救急科渡邊医師、4東病棟の飯垣看護師、事務部用度班の森本班長と私の5人チームで参加しました。

現地に行くまで詳細が分からないブラインド方式で訓練が行われました。一同不安を抱えながら訓練当日を迎えたのを覚えています。午前8時56分に山口県東部で震度6強の地震が発生し、待機要請が出たところから訓練がスタート。我々はまずE M I S (広域災害救急医療情報システム)の入力を行いました。本院の被災状況や、受け入れ体制、DMAT隊の派遣が可能かどうか、現在のDMAT隊の活動状況などを次々に入力しました。

資機材を選定し、DMATカーに積載した後、午前9時15分頃に病院を出発。現地に向かう途中、水や食料品などを購入 (DMATは自己完結型の活動なので、水の調達なども訓練の一貫です) しました。



現地には午前10時30分に到着。まずは消防本部とDMAT本部に到着を報告。DMAT本部の指揮下に入り、活動について話し合いました。その後、次々と到着する他病院のDMAT隊と資機材の確認や情報交換を行い、どのような活動をするのか確認し合いました。

我が隊も救助現場での活動に参加しました。瓦礫救助の現場で、高架橋の下敷きになった車に取り残された傷病者の救助に向かいました。車の中からはなかなか救助できず、時間が経過していたので、DMAT隊が中に侵入しトリアージと応急治療を行いました。その他にも、都市型救助を想定したロープレスキューや、水難事故を想定したエアレスキュー、土砂災害を

想定した生き埋め救助などが行われました。午前中はなんとか天気はもっていましたが、午後からは雨の降る中、泥だらけ、水浸しになりながらの訓練でした。待機時間も長く、活動自体はあまりありませんでしたが、実際の災害現場でもこうした状況になるそうです。

今回の訓練で得た教訓は、情報伝達の大切さと、装備の充実だと痛感しました。個人装備の不足で救助に入れなかったり、トランシーバーでの情報伝達がうまくいかなかったりと、もどかしさを感じました。今後も訓練に参加して場数を踏むのも大切だと思っています。

本院は災害拠点病院、DMAT指定医療機関です。あつてはならないことですが、災害が発生した際にはDMATが出動しますし、傷病者が多数搬送されてくると想定されます。病院全体で災害について考えていくことが必要です。

下関市内には、関門医療センターと済生会病院が災害拠点病院の指定を受けDMATを有しています。他病院のDMATや消防、自衛隊、警察などと顔の見える関係作りも大切だと思います。

今後もDMATの活動に、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



CLOSE UP!

第1回 がん医療市民公開講座

「すい臓がんとの出会いを早く知る方法」

平成24年度 第1回がん医療市民公開講座

**すい臓がんとの
出会いを早く知る方法**

九州大学大学院医学研究院
臨床・腫瘍外科学分野教授
田中 雅夫 氏

日時 2012年 10/27(土) 14:00~16:00
会場 海峡メッセ下関
先着申込 200名様 無料

〒750-8520 下関市向洋町1-13-1
下関市立市民病院
事務部経営企画グループ
TEL 083-224-3850
FAX 083-224-3838
E-mail: keiei@shimonosekicity-hosp.jp

講師 田中 雅夫 氏

(九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科学会分野教授)

日時 平成24年10月27日(土) 14:00～16:00

場所 海峡メッセ下関(市内豊前田町三丁目)10階国際会議場

参加費 無料

定員 200人(申し込み先着順)

後援 山口県、下関市、下関市教育委員会、下関市連合婦人会、
下関市連合自治会

申込先・詳細 下関市立市民病院事務部経営企画グループ

電話: 083-224-3850

ファクス: 083-224-3838

E-mail: keiei@shimonosekicity-hosp.jp

NEW FACE <新人医師紹介>

たけもと じゅんきち
武本 淳吉 (小児外科)

平成24年8月に着任しました。スタッフが少数のため、九州大学からの応援医師の協力を得ながらではありますが、当院で小児外科手術を再開し、下関市の小児外科医療に貢献したいと思っております。よろしくお願いいたします。



《循環器内科よりお知らせ》

8月31日から9月30日まで、第1カテール室に機械入れ替えのための工事が入ります。この間、基本的に心臓カテール検査・治療は行えません。このため原因のはっきりしない胸痛に関しては、当科で対応させていただきますが、「緊急カテール検査が必要と考えられる、明らかな急性冠症候群の急患」に関しては、受け入れを停止させていただきます。

関門医療センター、済生会下関総合病院、下関厚生病院の循環器内科の先生方には、上記日程の間の協力を快諾していただきました。新しい機械が稼動した暁には、尚いっそう努力してまいります。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(循環器内科部長 金子 武生)

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。

さて本号では、がん拠点病院の行事として隣がんの市民公開講座をご案内しております。先生方もどうぞご参加をお願いします。また、災害拠点病院としてのDMAT活動報告は、雨天の中、豪雨災害にも匹敵するものでした。2拠点を持つ地域の病院として邁進しますので、ご指導ご厚情をお願いします。広報年報委員長 吉田 順一



TEL: 083-231-4111 FAX: 083-224-3838

E-mail: info@shimonosekicity-hosp.jp

ホームページ: http://shimonosekicity-hosp.jp/

Contents 〈ブリッジ vol.58 目次〉

- 【連携医の声】 なかた整形外科クリニック 中田和男 院長 … 1
- 【コラム 向洋の丘】 副院長 前田博敬 … 2
- 【特 集】 新しい医療機器を導入しました … 3
- 【クローズアップ】 緩和ケア研修会を開催しました
ふれあい看護体験 … 4



○発行○ 2012(平成24)年10月22日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の 声

なかた整形外科クリニック
院長 中田和男 先生



下関市立市民病院の皆様方には、平素より大変お世話になっております。患者様をご紹介すれば、初診時、術後、退院時と主治医の先生からお返事をいただくばかりか、地域医療連携室からも別途入退院のご連絡をいただき大変感謝しております。救急患者様の紹介も、いつも速やかに対応していただき、聞けば救急専門医の先生も複数いらっしゃるのとこのことで、下関市民や開業医の我々にとっても大変心強い限りです。

当院は、旧市内、上田中町二丁目にあります。高齢の患者様がとても多い地域です。当院の駐車場にある車よりも、シニアカーや傘立てに入っている杖の数の方が多いことはしばしばです。当然ながら、変形性関節症や骨粗鬆症の患者様がたくさんいらっしゃいます。特に、骨粗鬆症は症状的に目に見える部分は少ないのですが、ひと度大腿骨頸部骨折などが起これば寝たきりになる等著しくADLを損なうことが知られています。患者様にはことある毎にその治療の必要性を説明しておりますが、まだまだ十分には理解を得られていないのが現状です。病診連携ではこのような身近で地道な医療は我々開業医で、入院、手術が必要になれば総合病院で医療をするというのが基本になるのではないかと考えています。

最近、入院、手術を依頼、ご紹介した患者様の御家族が「良い先生、良い病院をご紹介いただきまして本当にありがとうございました」と、お礼を言いに来られることが何回もありました。私としては紹介状を書いただけなのでただ恐縮するばかりですが、貴院の誠実で親身な対応に感謝されているのだと思います。どうぞ、今後ともよろしくお願い致します。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861



「記者会見シミュレーションを終えて」

法人化後半年を経過し、当院は今後ますます様々な面で自立することが求められています。中でも、医療事故への対応は安全管理の面から最も重要であり、ひとたび医療事故が起これば過失の有無に関係なくマスコミ等から取り上げられ、その対応如何によっては住民の皆様や患者様に誤解を与えかねません。一方、テレビでは毎日のように記者会見の様子が流されていますが、この時の印象が与える影響は非常に重大であり、その後の対応を大きく左右するといっても過言ではありません。

そこで、9月8日(土)、当院病院幹部と医療安全対策室員約50名を対象に、適切に記者会見を乗り切るための技術を会得するため、初めて本格的な「記者会見シミュレーション」研修会を行いました。研修は、「医療事故発生時の対応」に関する講義や、講師の先生が勤務されている病院での記者会見シミュレーションのDVD鑑賞、5つのグループに分かれて記者会見の準備、即ちポジションペーパー作成・Q&Aシート作成など楽しい雰囲気で行いました。

仕上げは2つのグループで行った記者会見ロールプレーです。ロールプレーでの各人の役割は、院長役・安全管理部長役・事務長役(記者会見の司会役)・記者役・カメラマン役・野次役です。冷静に受け答える役者、この際とばかり日頃の鬱憤をはらす野次役、その野次に丁寧に答える院長役など、様々な場面と人間性を楽しめましたが、合格点とは言い難いようでした。

記者会見が映像で流れる場合、視聴者に好感を持ってもらう態度が必要です。講師の先生が強調されたポイントは以下の3点でした。

- ① 表情：歯を見せてはいけない。笑っているようにとられ軽薄な印象を与える。
- ② 態度：ゆっくりとした動作は優雅さと落ち着いた雰囲気を醸し出す。
- ③ 姿勢：背筋は伸ばして正しい姿勢を取りましょう。

初めての記者会見シミュレーションを終えて、出席者は、少なくともポジションペーパーの作成、会場の選定とセッティングといった基本となる記者会見の準備がいかにか大変か理解できたようです。練習という潜在意識が故に緊張感が足りない一面もありましたが、記者会見のイメージ作りができた有意義な一日だったと思っています。

循環器内科からお知らせ

循環器内科部長 金子武生

前回、心臓の血管造影装置更新のため、検査ができない旨をお知らせしました。

急患受け入れの制限をすることとなり、大変ご迷惑をおかけして、申し訳ありませんでした。おかげさまで10月1日に、新しい装置が入りました！東芝製の最新鋭機で、画質が格段に良くなっています。他にも

- ① 同じ造影室で下肢動脈造影ができます
- ② 冠動脈造影も同時に2方向撮影が可能で、造影剤が節約できます
- ③ ステンットの視認性が良くなり、被ばく量が減らせます

など、患者さまにとってもメリットが多数あります。9月に導入したシンチグラムも画像が鮮明となり撮像時間も短縮しています。心筋血流シンチでは、以前はお願いしていた絶食も不要となりました。冠動脈CTも引き続き行っております。急患でも、胸部症状が少し気になる患者さまでも、パワーアップした当院循環器内科にご紹介ください。

【次のページでも紹介しています！】

新しい医療機器を導入しました！

新しい設備の導入によって、入院、外来の患者さまにより質の高い医療の提供を目指しています。開業医の先生方からのご依頼もお待ちしております。

■ 核医学検査装置

G E 独自の画像処理用ソフトウェア「Evolution」を搭載しており、短時間撮像・高速画像再構成・最新の収集データ解析が可能になりました。

心臓検査では、血流異常だけでなくポンプ機能としての心臓の働きを解析する事が可能となり、1度の検査で多くの診断情報が得られます。脳血流検査では従来のS P E C T 断層像による診断の問題点を解消するために考案された3 D - S S P 解析が加わり、認知症診断の早期発見と鑑別診断に有用です。腫瘍の全身検査から脳血流、心筋血流解析などの所要時間を短縮でき、患者さまの負担を軽減することができます。さらに、同時に導入されたワークステーションにより、核医学検査の断層像とC T やM R I 断層像を3次元的に自動で重ね合わせる機能があり、腫瘍などの正確な位置確認を行うこと

により的確な診断を実現します。



■ 血管造影装置

この装置の主な特徴は独自の画像処理機能（Pure Brain）により、動きによる残像のない透視画像となり、心臓を始めとする動きの早い部位でも、ステント内腔やガイドワイヤーなどの細かな対象を鮮明に観察でき、より正確な診断に貢献します。

5軸回転機構を搭載した床置きCアームは、動作範囲が大きく、頭部から足先まであらゆる血管の検査・治療を寝台を移動させることなく手技の多様化を実現しました。さらに、Stepping DSA・バイプレーン機能・平面検出器（FPD）・3D撮影などの機能を駆使し、検査時間の短縮・被ばく低減・高画質な画像提供をいたします。患者さまのために、最大限に威力を発揮させ医療の質向上に繋げていきます。



※その他にも、血液検査システム（写真左）、CT（写真右）を更新しました。

※X線一般撮影装置（FPD）の更新も予定しています。医療機器の更新情報は、順次お知らせします！



CLOSE UP!

第4回がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会を開催。



当院では、8月25日（土）、26日（日）の2日間、13時間にわたる緩和ケア研修会を開催しました。

2007年のがん診療対策推進基本計画で、全てのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについて基本的な知識を習得することが目標として掲げられました。これに従い、2008年厚生労働省健康局通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が出されました。本研修会はこの指針に沿ったものであり、討論やグループワーク、ロールプレイからなる参加型の研修会です。ご参加いただいた先生方、ご協力ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の研修では、下関市でがん診療の最前線で活躍されている開業の先生方や、済生会下関総合病院や本病院に勤務の先生方の計13名が受講されました。参加された先生方の診療のお役に立てる内容であったと自負しています。また、この研修会は、PEACEプロジェクトとして全国的に展開され、山口県では県と県医師会の共催、各がん診療連携拠点病院で開催されています。がん診療に携わる先生方に広く参加していただけるよう、本病院では内容をさらに充実させ今後も開催してまいります。がん診療に携わる多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

将来の夢は看護師！「ふれあい看護体験」

今年で22回目を迎えた「ふれあい看護体験」。今年も、8月7日に開催しました。

市内の小中高生10人が、白衣を着て看護師の仕事を体験しました。院内見学や、AED操作、血圧・体温測定などさまざまな体験をした参加者の一人は、「大変な仕事だけど看護師になるのが夢。勉強になった」と話してくれました。



編集後記

秋も深まってまいりました。地方独立法人化され下関市立市民病院と名を変え半年が過ぎました。「救急科が新設され頑張っている」というお褒めの言葉をいただき、うれしい反面、まだまだ目に見える改善がなされていないという厳しいご意見もあります。市民の皆様や連携医の先生方から高い評価を受けるよう職員一同頑張っていきますので、今後ともご支援ご協力よろしく申し上げます。

地域医療連携室長 坂井 尚二



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

TEL : 083-231-4111 FAX : 083-224-3838

E-mail : info@shimonosekicity-hosp.jp

ホームページ : http://shimonosekicity-hosp.jp/

Contents 〈ブリッジ vol.59 目次〉

- 【連携医の声】 山口整形外科 山口芳英 院長 … 1
 【コラム 向洋の丘】 理事(事務部長) 大津修一 … 2
 【特集】 初期研修医、奮闘中 … 3
 【クローズアップ】 がん医療市民公開講座を開催
 血液内科に新任医師が着任しました … 4



○発行○ 2012(平成24)年12月25日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の声

医療法人社団 山口整形外科
 院長 山口芳英 先生

彦島で整形外科の診療所を開業して28年になりますが、私は山口大学出身で、開業するまでは済生会下関総合病院に勤務しておりましたので、市民病院の先生方や職員の方には馴染みが薄かったのですが、開業してからは市民病院が彦島から近いこともあり、市民病院の皆さんには日頃は大変お世話になっております。他科の先生方にはほとんど顔見知りの先生がいませんので、失礼は承知の上、外来医師診療表を見ながら紹介状を書いており、いつも親切で丁寧なご返事をいただき改めて感謝申し上げます。特に整形外科は外傷が多く、緊急手術や入院を要する症例も多いのですが、白澤部長はじめ整形外科の諸先生方にはいつも無理を聞いてもらっています。患者さんが入院すると、地域医療連携室より紹介元にFAXが届き、入院日・病棟名・主治医をお知らせいただき、その上、お見舞いメールの受付など、市民病院の患者サービスへの配慮にはいつも感心しております。



当診療所は平成19年より伊藤裕先生を副院長に迎え、二人体制で診療を行っており、平成20年にはMRIを導入し、整形外科の慢性疾患や骨折・関節損傷などの急性疾患にMRI検査を行っています。

旧市内は以前は1ヶ所四方に4つの病院が集中していましたが、現在では済生会病院が安岡、関門医療センターが長府の方に移転し、この分散で地域住民の医療環境はかなり改善されてきており、紹介先も患者さんやその家族の希望を第一としながらも特に、整形外科においては各病院の専門性を考えながら、紹介状を書いております。4病院からの広報紙や年報の提供は、各病院の最近の情報や一年の実績が手に取るようにわかり、我々開業医にとっては病院の特徴を知る上で非常に役に立っています。

今後医療が細分化し、専門化すればするほど、役割分担が重要で病診連携が必要になり、市民病院には今まで以上にお世話になると思いますので、よろしく願いいたします。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
 地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861



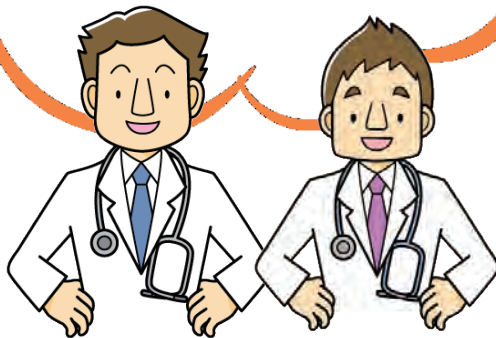
「来年も素晴らしい年になりますよう、願っております」

今年もいよいよ年の瀬を迎えました。連携医の先生方におかれましても忙しい日々の中、市民の医療を確保するため懸命にご尽力いただいておりますことに敬意を表すところです。

本院も地方独立行政法人となって、市民の皆さまに信頼され期待に応えられるよう医療サービスの向上と質の向上を目指し、チーム医療の充実、病院機能の充実、救急医療への積極的対応等を進めております。あわせて地域医療への貢献と医療連携の推進を図るため、高度医療の充実、がん医療の充実そして地域の医療機関との連携強化等の目標を掲げ、これらを達成するために現在鋭意努力しているところです。特に医療連携の推進は、県の保健医療計画にも示されているがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾病、救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療の5事業において中核的役割を果たすため地域連携の体制強化を図り、病診連携を積極的かつ強力に進めようとするもので、近いうちに地域医療支援病院の承認をも念頭に置いているものです。このように本院は院長を先頭に医師、看護師をはじめとする職員が一体となって期待に応えてまいりたいと努めておりますので、今後とも一層のご指導、ご助言をお願いいたします。

～ 特集 ～

初期研修医、奮闘中！



▲ 4月から6月には30項目以上にわたる早朝講義があります。

当院には、現在4人の研修医がいます。それぞれ一人の医師として、なにを学び、どのような想いで研修にあたっているのでしょうか。当院の研修医の声をご紹介します。

< 当院の研修の特色 >

- 寺子屋方式による徹底指導
- 万全の指導体制
- 充実の救急医療
- 地域に密着した地域医療
- 院内勉強会も活発
- 魅力的な国際交流

■古谷英章 (ふるたにひであき)

基幹型・1年次

下関市立市民病院の研修の最大の特徴は、先生方が熱心に指導して下さるところです。

最初の2ヶ月は早朝講義が毎朝30分あり、救急で必要なエッセンスを教えていただけました。また、手技も納得のいくまで丁寧に教えていただいて、当直では多くの症例を学ぶことができました。



当院で研修できて、本当によかったと思います。

■亀田昌司 (かめだまさし)

協力型・2年次

昨年は九州大学病院でローテートし、2年次をお世話になっています。将来の専門科として選んでいる消化器内科と、画像診断の機会を得るために放射線科をローテートしています。

4月の初めに内科カンファレンスで1年次に研修した内科を尋ねられ、1年次に研修できなかった内科(循環器、呼吸器、膠原病内科)を並行して同時期にローテートさせていただけることになり勉強になりました。

研修医一人ひとりの要望に柔軟に対応してくれ、大変感謝しています。



■河野雄紀 (かわのゆうき)

協力型・1年次

この病院の感想は、先生方が指導熱心だということです。指示を出すだけの指導ではなく、忙しい中でもできる限りディスカッションの時間を割いてくださり、私とのディスカッションのために先生の帰りを遅くしてしまうこともしばしばでした。研究会・カンファレンスでの症例発表の機会もいただき、疾患について通常診療で行うより更に深く学ぶことができました。様々な手技も教わり

実践させていただき、自分の今後のためにありがたい指導をしていただいたと思います。



■安達利昭 (あだちとしあき)

協力型・1年次

少人数での研修のため、様々な実技を実践でき、内容の濃い研修をすることができました。

早朝講義では、必要最低限の知識を得ることができ、指導医の先生もしっかり指導して下さいました。

また、指導医の先生だけでなく、周りの先生方もいろいろとアドバイスしていただき、充実した研修生活を行うことができました。



CLOSE UP!

がん医療市民公開講座を開催。



▲すい臓がんの患者さまやそのご家族の方からの質問に答える時間も設け、充実した市民公開講座になりました。

10月27日、九州大学 臨床・腫瘍外科 田中雅夫教授によるがん医療市民公開講座「すい臓がんとの出会いを早く知る方法」を行いました。朝方は雨もぱらついていましたが、市民の皆さまに多数ご来場いただきました。すい臓がんという、とっつき難い印象を受けますが、気さくな調子のお話で、あっという間の2時間弱でした。

平成24年度第2回がん医療市民公開講座の開催も決定しました。

テーマ：「地域を結ぶ緩和ケア～いのちへの向き合い」

講師：総合病院山口赤十字病院 副院長 末永和之氏

日時：平成25年2月2日（土）14時～16時

場所：海峡メッセ下関 10階 国際会議場

NEWS

血液内科に着任しました！



開業医の先生方からのご依頼もお待ちしております。
よろしくお願いいたします。

久保 安孝（血液内科医長）／川崎医科大学卒業（平成14年）

■血液内科とは

血液疾患は症状に乏しく、検査で見つかることが多い疾患が多いです。採血や検診結果で白血球が多い、赤血球が少ないなどと言われて良くわからないということがよくあります。リンパ節が腫れてきた、極端に貧血症状が強い、出血傾向がある、微熱が長く持続するなどの症状があれば一度ご相談ください。血液という特殊な専門の立場から下関地域に貢献できたらと思っています。

数多くの疾患を抱えている患者さまや、どの科を受診すればよいかわからない患者さまなどにも安心して受診していただける、地域の皆様に開かれた血液内科を目指して頑張りたいと思っています。

近隣の病院や医院の先生方とも連携を密にして、患者さまが適切な医療を受けることが出来るよう調整もしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

師走は月日が走り去るように過ぎていきます。この時期になると「あれもこれもしなければならぬ」と気持ちだけが先走り、心なしか落ち着かないのは私だけでしょうか。俗に「人は心にゆとりがない時ほど災いがふりかかる」と言われています。思わぬところに落とし穴が潜んでいるのかもしれませんが。忘年会シーズンに国政選挙、極寒で慌しい年末を元気に乗り切るにはいつも以上の自己管理が大切だと思います。皆様、お気をつけて良い年をお迎えください。

副院長 前田 博敬



地方独立行政法人
下関市立市民病院
SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

TEL : 083-231-4111 FAX : 083-224-3838
E-mail : info@shimonosekicity-hosp.jp
ホームページ : http://shimonosekicity-hosp.jp/

Contents 〈ブリッジ vol.60 目次〉

- 【連携医の声】おくぞの耳鼻科クリニック 奥園美子 院長 … 1
- 【コラム 向洋の丘】 副院長 真弓武仁 … 2
- 【特集】 市民公開講座を開催しました … 3
- 【クローズアップ】 広報紙をリニューアルします
麻酔科に新任医師が着任しました … 4



○発行○ 2013(平成25)年3月12日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の声

おくぞの耳鼻科クリニック
院長 奥園美子 先生



私は、生野町で耳鼻科診療所を開業していますが、市民病院の先生方、職員の皆様方には、日頃より大層お世話になっております。開業前は旧国立下関病院勤務で、耳鼻科の先生方以外の市民病院の皆様とはあまり馴染みがなく、開業当初の紹介先は国立下関病院に偏っていました。しかし近年、市民病院の先生方をお願いする機会が急速に増えています。

耳鼻科開業医の外来では、溢れるほどの軽症例の中に、時に驚く様な重症例が紛れ込んでいます。緊急性はないが見逃しは許されない重症例(悪性腫瘍等)もあれば、緊急性があり、対応を誤ると致死的となる重症例もあり、後者の代表例が急性喉頭蓋炎です。この疾患は、喉頭蓋腫脹が急速に進行し、一見元気そうな患者さんが、突然気道閉塞を起こします。私も、感冒様症状で来院し、重症感の全くない患者さんの中咽頭に“熟れた真っ赤なトマト”(極度に発赤・腫脹した喉頭蓋)を発見し、足が震えたことがあります。この様に、明らかな緊急例はともかく、むしろ私どもが紹介すべきか否か悩むのは、その一歩手前の症例です。明らかに異常所見があるが現時点では重篤ではない、しかし急変が心配。こういう悩ましい症例が、結構多数、しかも診療時間終了間際や土曜日、当番日に受診されます。この様な症例は、結果的には杞憂に終ることも多く、申し訳なく思いながら紹介のお電話をします。その際、快く紹介を受けていただくと心強く、本当に有難いのです。

市民病院の皆様方の医療レベルの高さは以前より周知の事ですが、紹介時のご対応については、数年前まで、若干疑問に感じるところがままありました。しかし、最近では、職員の皆様の電話対応にも、紹介を快く受けようという心意気を感じられ、安心感があります。お忙しい皆様が、その様に意識改革をされるには、相当のご努力を要したと思われ、頭が下がります。どうぞ今後とも、よろしく願い申し上げます。



「まごころ」を見失わないように

春の陽射しを感じる今日この頃ですが、連携医の先生方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日頃より、大変、御世話になり、感謝申し上げます。お陰様で、当院は、半年くらい前から、満床の状態が続き、病床のやりくりで苦勞しています。これは、法人化の影響というよりは、救急科が新設され、「断らない救急」を目指して、スタッフが頑張っているためではないかと個人的には考えています。一方、患者様を受け入れる側の整形外科や麻酔科などは、多忙を極め、ストレスも限界に達しつつあります。このような状況を緩和するため、ドクターズクラブに、医療事務的な書類の作成を増やして頂いたり、応援の医師の派遣を要請したりして、できるだけ、医師本来の診療に専念できるようにしたいと願っていますが、医師不足の問題もあり、解決には相当な努力が必要となっています。

話は、変わりますが、最近、『小説の中の医師たち—理想像の解体と「あるべき姿の欠損」』という夏川草介氏(小説家、医師)の評論を読み、共感を覚えました。小説の中の医師像は、『赤ひげ診療譚』などの聖職者から、『白い巨塔』に代表される聖職者としての医師像の解体を経て、その延長上の救急医療の問題点を浮き彫りにしたものや、天才医師を扱ったストーリーなどへ変化しているが、「混沌とした医療現場において、医師はどうあるべきか」という問いに対して現代の小説は終始沈黙しているように思われるとの感想が述べられています。あるべき医師像として、彼は、アルベール・カミュの『ペスト』に登場する平凡な内科医リウーの『誠実』を紹介しています。ペストと戦い続け、町中を奔走するリウーは、医師の献身の精神を基本的に信頼していないが、いかなる理由で献身を続けるのかとの問いに、リウーは「ペストと戦う唯一の方法は、誠実さということなのです」と答えているとのこと。誌面の都合で、この『誠実さ』について詳しく述べることはできませんが、『誠実さ』や『まごころ』を見失わないようにしたいと自戒しているところです。



患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861

平成 24 年度第 2 回がん医療市民公開講座

「地域を結ぶ緩和ケア～いのちへの向き合い～」を開催しました。

下関市立市民病院 緩和ケアチーム 篠原 正博（外科部長）

広報年報委員会 吉田 順一（呼吸器外科部長）



▲末永先生のお話真剣に聞き入る参加者の皆さん

「地域がん診療連携拠点病院」として当院が開催しております市民向け公開講座を今年 2 月 2 日（土曜日）、総合病院山口赤十字病院副院長の副院長末永和之先生をお招きし、海峡メッセ下関で開催しました。

おかげさまで 120 名もの多数の市民の方に参加いただきました。ありがとうございました。

講師である末永先生は、ご所属される病院でたくさんのがん患者さんの治療に当たってこられ、ある患者さんとの出会いをきっかけに、安心してがん治療の受けられる医療環境の必要性を痛感され、緩和医療の充

実、緩和ケア病棟の設立、さらには自宅で療養される患者さんへの在宅訪問医療を実践されてきました。ご講演では多くの経験談を通して、「人としての尊厳」、正に「いのちへ向き合い」方、介護を通してますます深まる家族愛や看取りを通しての「いのちのつながり」などのお話しを頂きました。思わず目頭が熱くなり、会場ではたくさんの方が感動の涙を流しておられました。

後半では、市民の皆様からの質問に、一問ずつ丁寧にお答えいただきました。いのちに向き合う先生のあたたかいお人柄が感じられました。下関地域でも、闘病中の多くの患者さんが困っておられる実情がわかり、「地域がん診療連携拠点病院」として当院の責務、緩和医療体制の充実に向けての今後の活動など、多くを学ぶことができた大変充実した時間でした。

▶講座の後半は、末永先生（左）と当院篠原外科部長（右）による質問コーナーでは、患者さまやそのご家族からの切実な悩みに応えていきました。



CLOSE UP!

病院広報紙を リニューアルします!

病院広報紙「ブリッジ」は平成 25 年度から、広報紙「まごころ」としてリニューアルします。

これまでの広報紙「ブリッジ」（地域の先生向け）と広報紙「ふくふく通信」（患者さま向け）を一緒にして、年 4 回、春・夏・秋・冬号として発行します。

●タイトル「まごころ」について

昨年 11 月から 12 月まで、新広報紙のタイトルを、連携医の先生方や当院職員から募集しました。応募総数 14 点の中から、下口広美看護部師長（6 階東病棟）の作品が選ばれました。



NEWS

麻酔科に着任しました!



平成 25 年 3 月から市民病院で働くことになりました。
よろしくお願いいたします。

あかだ てつや
■赤田 哲也（麻酔科医師）／徳島大学卒業（平成 19 年）

新しい環境に早く慣れて、患者さまのために頑張りたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

地域の先生方には、昨春の法人化後もご厚情賜り感謝です。長くご愛読いただいた広報紙「ブリッジ」は、今回が最終号となり、今春からは患者さま向け広報紙と統合した「まごころ」をお届けします。そのタイトルでコラム「向洋の丘から」があり、ご一読くださると幸いです。

有り難くも本号表紙には、おくぞの耳鼻科クリニック院長の奥園美子先生に玉稿賜り、当方も頭が下がります。と申しますのも、小職が市内の他病院に奉職していた時にご指導いただいた経験によります。別ページでは、地域がん診療連携拠点病院として行っている市民公開講座で、緩和ケアについて開催のご報告をしています。さらに、3 月から着任した新進気鋭の麻酔科医の紹介もあり、胸部外科の症例があることも就職の動機とも伺い、皆様方に加えてご報告します。

医療の地域連携は 365 日動いており、昨春に拡充された救急科も活躍しています。どうか広報紙が改まりましても、引き続きご愛顧ご指導お願いします。

広報年報委員会委員長 吉田 順一



地方独立行政法人
下関市立市民病院
SHIMONOZEKI CITY HOSPITAL

TEL : 083-231-4111 FAX : 083-224-3838
E-mail : info@shimonosekicity-hosp.jp
ホームページ : http://shimonosekicity-hosp.jp/